

多條樓冬國画



春雨



鶴耕堂梓

初

~13  
3016  
2

遊仙習



緑河川柳作

丁未の暮  
新板

初

~13  
3016  
1

遊  
仙  
習



緑  
河  
柳  
作

丁  
未  
の  
春  
新  
板

初  
編  
上

3016  
1

へ13  
3016  
1



丁未  
春



新  
板

# 遊仙書春雨草紙

一陽齋豊國畫  
緑亭川柳作

江戸馬喰町二丁目  
初編上冊

山口屋藤兵衛板

源氏の為の糸の無常と引出し平家物語の祇園精舎の鐘の無為の抄と書添住吉の落久保の優美と紅血の鉄血と摸様を拜日でも比目已くか心の抄ひて昔の次女を傳へむと又形一天を

これ月の抄ひ地のありの花の抄ひ米の錢の魂を苦む者の金乃

番の隙あり抄ひ事を嫌へと既に五老井の辞の五十年の事を

一杯の暮の麥のも早く五十年生人事の田樂を翻をよりと

安しといへ光陰を無雅の費さえの程よ抄ひ山境の替ると

多く萬の物の情を知り草の芽の雨を洒ぐか精氣と能養ふ

一且抄ひ友とる時友とるとらるとらるれ今戲に出る抄ひ春雨

草紙と号て子供抄ひの道具ときこきを是を見てそると遊び

るとバ談らる抄ひの事

弘化四年丁未春正月發市

緑亭川柳誌

春雨



毒が

香

たより乃

風

吹のらん

春をさぐ

君が

まま

せは

小里民部娘  
若草



あが免はる

あふを

むのーよ

なりぬ

とと

山陰落穂丸  
後=歌之助利光

軒端乃梅ハ  
わを強ひてお邪



あきあきの  
秋篠

あきあき  
物々  
罪

さうら  
乃

櫻

蓮谷

若竹やまびらく

のこころ  
あきあき

祇徳

あきあき  
僕兵吉



其角

川のみみ

柳

あきあき

千百

魚貫

あきあきのあき

はら

あきあき

霜の猿

女針

あきあき  
於典

山陰  
左衛門佐利治

小里  
民部  
吉時



お神やま

いけいけい

たのれ

おひかり

きりぎりす

若艸侍女露野

春雨

おん入を  
あゝあゝ  
持心  
はよ  
かひ  
あま



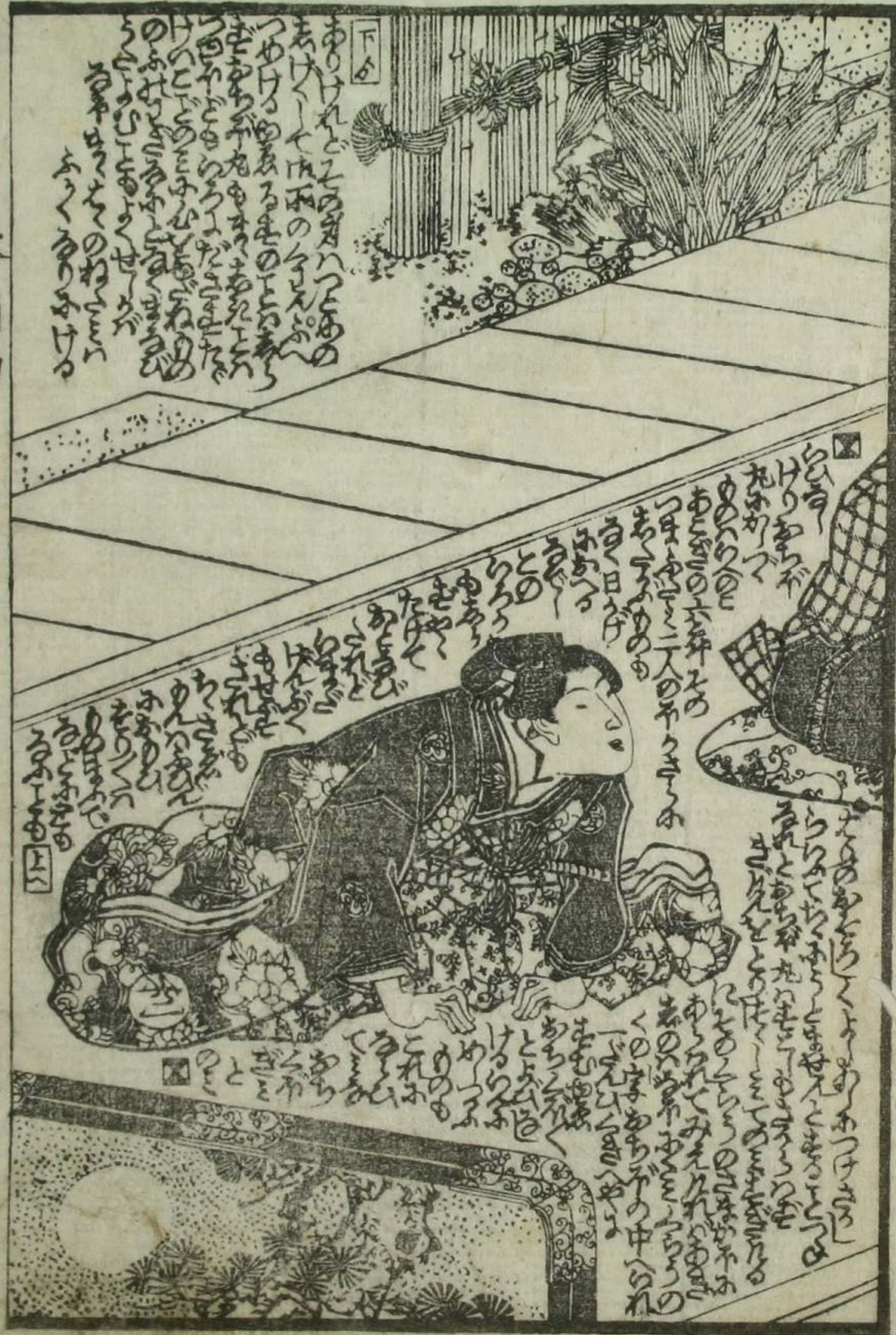
六郎妻

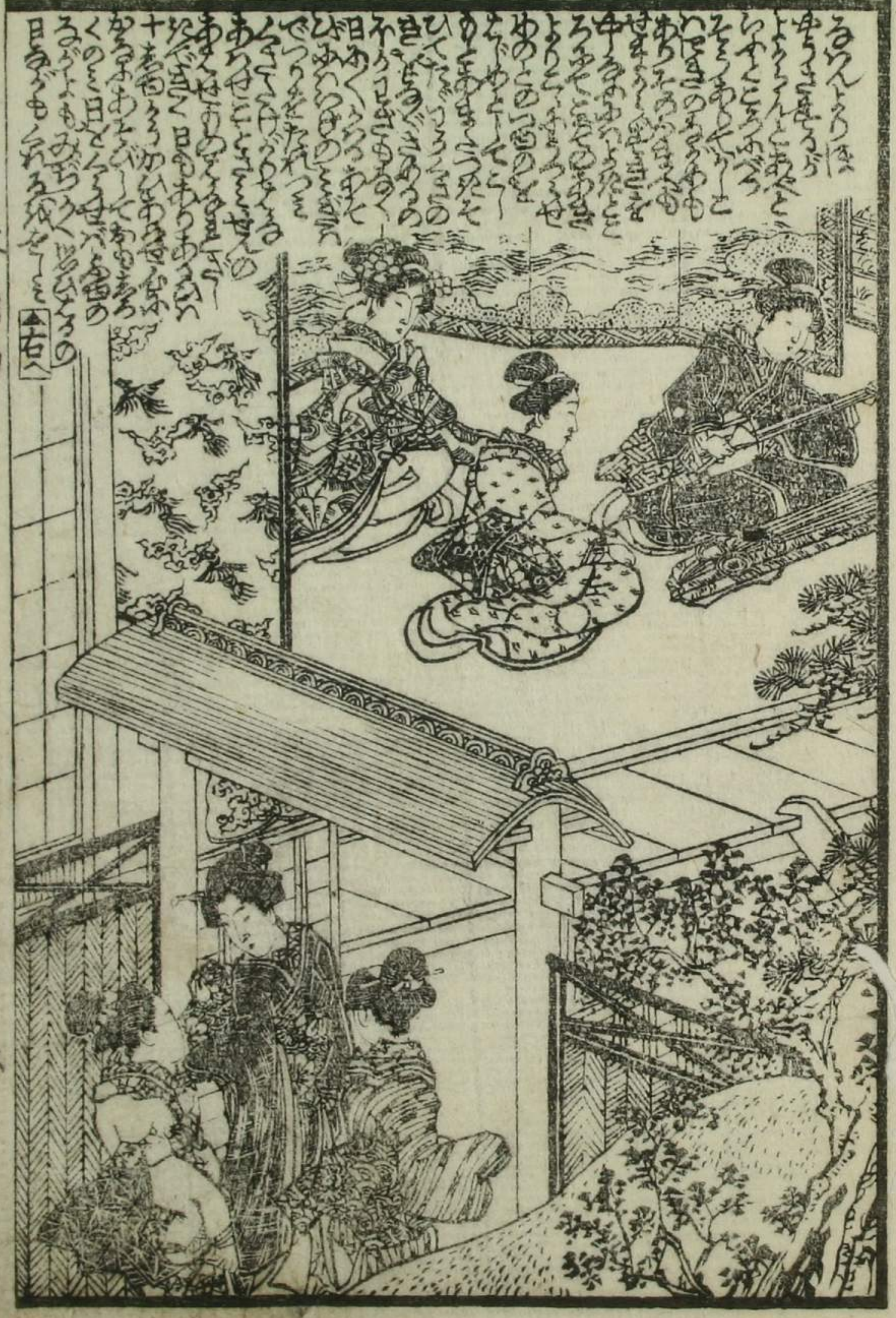
おん

阿漕六郎

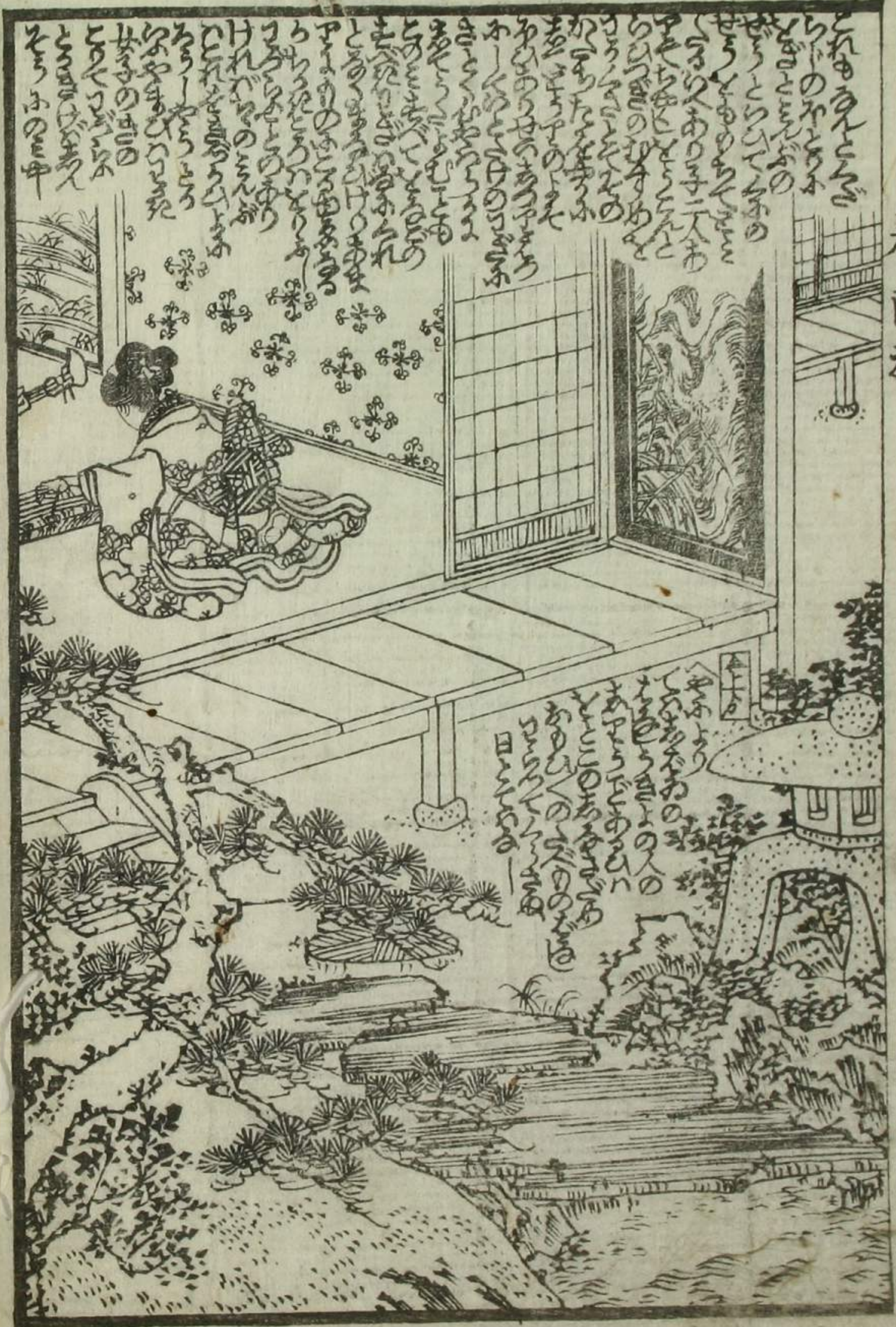
春雨

四





五十四



五十五

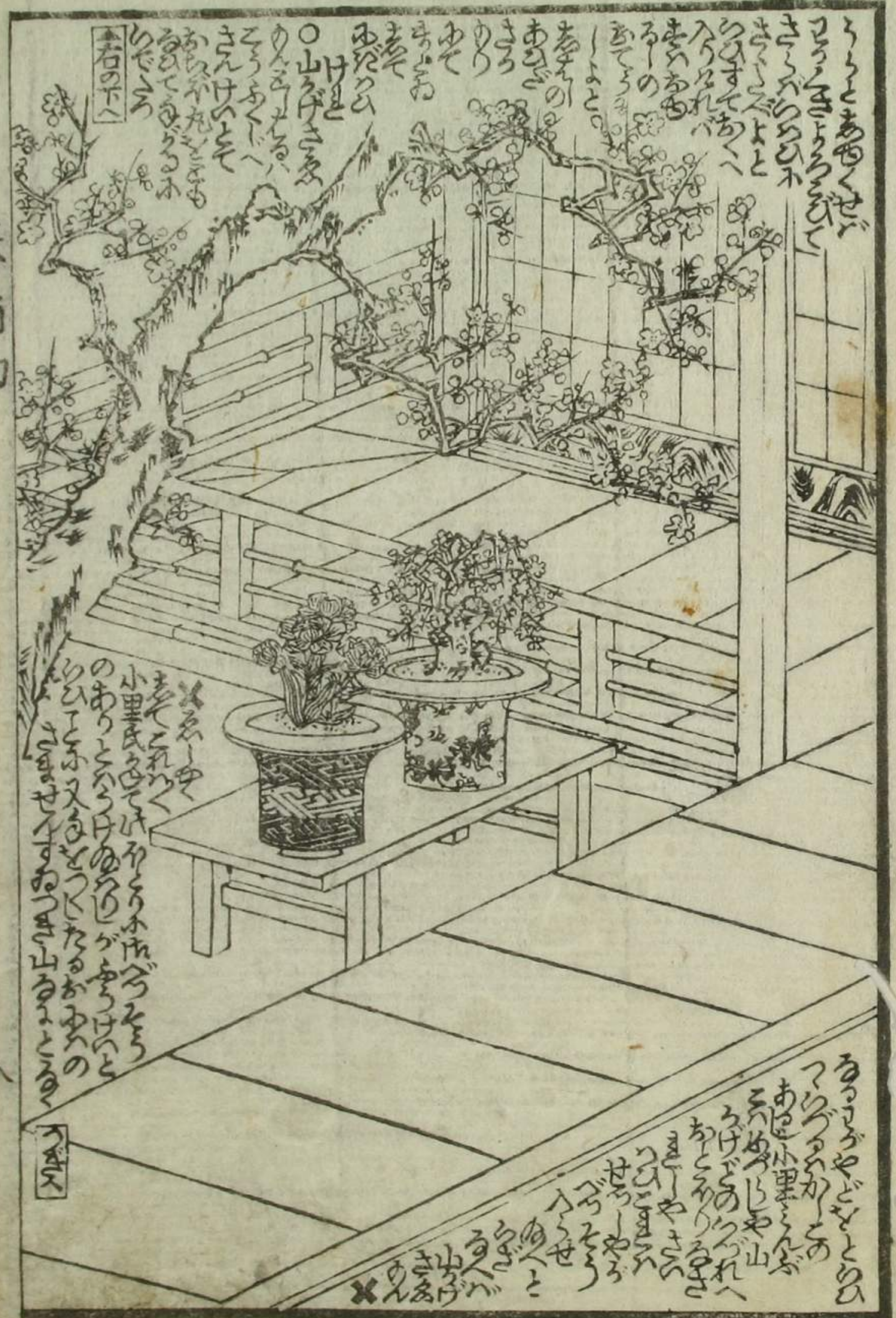




ついでに... 春の雨... 花の匂い... 山の手... 小里氏... 山の手... 小里氏... 山の手... 小里氏...



左の... 若... 山の手... 小里氏... 山の手... 小里氏... 山の手... 小里氏...



山の手... 小里氏... 山の手... 小里氏... 山の手... 小里氏... 山の手... 小里氏...

山の手... 小里氏... 山の手... 小里氏... 山の手... 小里氏... 山の手... 小里氏...

山の手... 小里氏... 山の手... 小里氏... 山の手... 小里氏... 山の手... 小里氏...



一、二、三、まきえしと  
 たつたまきえしと  
 ちりあまのふとせりせり  
 あひてあひてあひてあひて  
 たふあひてあひてあひて  
 こころとまきえしと  
 へとあひてあひてあひて  
 ちりあまのふとせりせり  
 つまきえしとあひてあひて  
 まきえしとあひてあひて  
 くれもあひてあひてあひて  
 さあまのふとせりせり  
 あひてあひてあひてあひて  
 けいあひてあひてあひて  
 ちりあまのふとせりせり  
 あひてあひてあひてあひて  
 ちりあまのふとせりせり  
 あひてあひてあひてあひて



左の上  
 ちりあまのふとせりせり  
 あひてあひてあひてあひて  
 まきえしとあひてあひて  
 くれもあひてあひてあひて  
 さあまのふとせりせり  
 あひてあひてあひてあひて  
 けいあひてあひてあひて  
 ちりあまのふとせりせり  
 あひてあひてあひてあひて  
 ちりあまのふとせりせり  
 あひてあひてあひてあひて



せしとあひてあひて  
 のちのあひてあひて  
 るとあひてあひて  
 けいあひてあひてあひて  
 ちりあまのふとせりせり  
 あひてあひてあひてあひて  
 まきえしとあひてあひて  
 くれもあひてあひてあひて  
 さあまのふとせりせり  
 あひてあひてあひてあひて  
 けいあひてあひてあひて  
 ちりあまのふとせりせり  
 あひてあひてあひてあひて  
 ちりあまのふとせりせり  
 あひてあひてあひてあひて

若  
 ちりあまのふとせりせり  
 あひてあひてあひてあひて  
 まきえしとあひてあひて  
 くれもあひてあひてあひて  
 さあまのふとせりせり  
 あひてあひてあひてあひて  
 けいあひてあひてあひて  
 ちりあまのふとせりせり  
 あひてあひてあひてあひて  
 ちりあまのふとせりせり  
 あひてあひてあひてあひて

右の下  
 ちりあまのふとせりせり  
 あひてあひてあひてあひて  
 まきえしとあひてあひて  
 くれもあひてあひてあひて  
 さあまのふとせりせり  
 あひてあひてあひてあひて  
 けいあひてあひてあひて  
 ちりあまのふとせりせり  
 あひてあひてあひてあひて  
 ちりあまのふとせりせり  
 あひてあひてあひてあひて

川柳作豊國画



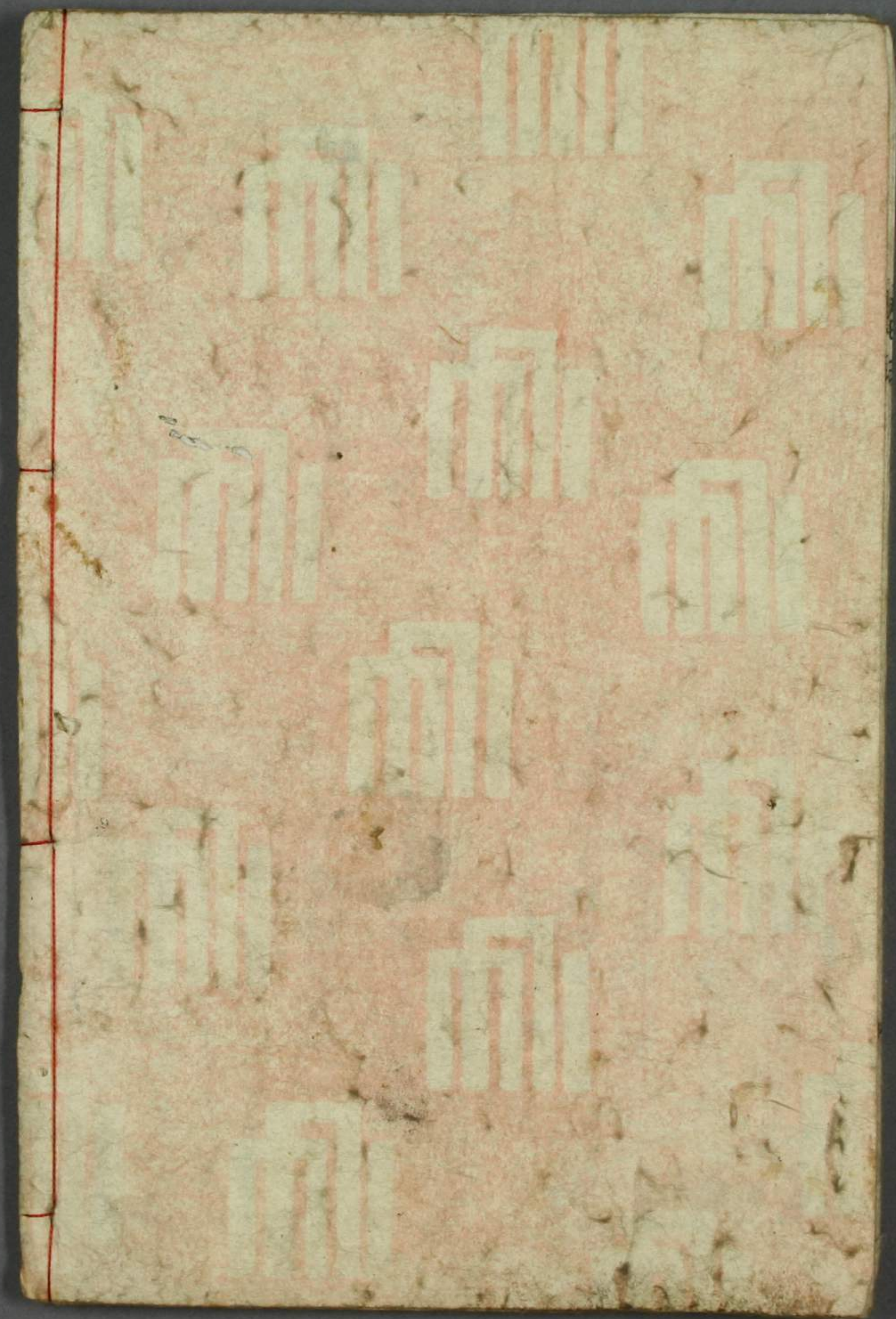
ついでちちやとあけよと  
いひはけなむぐすのこころんが  
あつとととられいもまこ  
ちちやととられいもまこ  
あつとととられいもまこ  
あつとととられいもまこ  
あつとととられいもまこ  
あつとととられいもまこ  
あつとととられいもまこ  
あつとととられいもまこ  
あつとととられいもまこ

神傳 秘方 油藥 香祖香

一頁代 四十八銅 二十四銅 錦耕堂製

切きき種梅のゆき  
抑せよの根本欲尋る小頃八建武辛申棟正成之度との合戦の折に辛戦場を立寄り  
小夫まきと云ふ病又ハ馬のひづりあふおらるるのささるるに其後其  
男手正成是法は薬下仁心深忍心をたすむいと不便小思ひひハ士卒の勞ハ則私勞之  
俗ら好葉らうらばやそと日夜思慕を巨匠つ竟ハ彭祖香を而手あつ自前をれを  
秘法にて辛卒の痛不補治するハ小昔立ぬ痛状さうり分るのゆきやて  
まゝあつこの誠は身代のゆきやあつこの膏をたすぬ先祖子死ハ法は法は法は法は  
記書で今余傳ふ後て是法用者生るる愛徳ハ法徳ハ不とて法せばハ不とて法  
けは人の勤めせ候と下書とて世承愛徳ハ法徳ハ不とて法せばハ不とて法

板元 山屋



春霖樓冬國画

春雨



錦耕堂梓

初

13  
3016  
2

へ13  
3016  
2



丁未



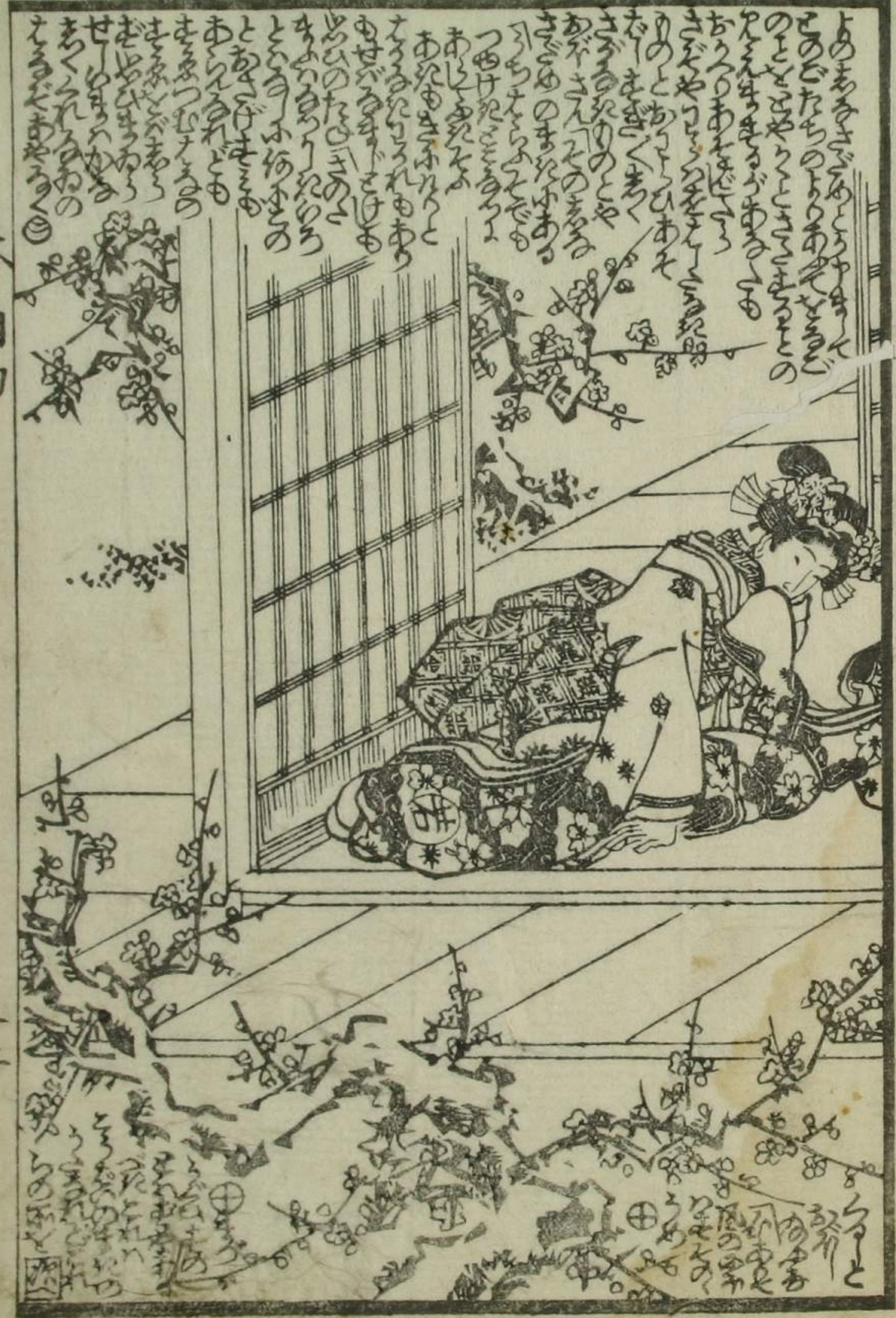
新板

川柳作  
豊國画  
存仙当春雨草紙  
初編下冊  
錦耕堂板

春

Illustration of a scene with two figures at a table. The figure on the left is seated and looking towards the right. The figure on the right is seated and looking towards the left. There are various objects on the table, including a large bag and a small object. The scene is set outdoors with a fence and trees in the background. The illustration is surrounded by vertical columns of handwritten Japanese text. A red seal is visible in the lower right corner of the illustration area.















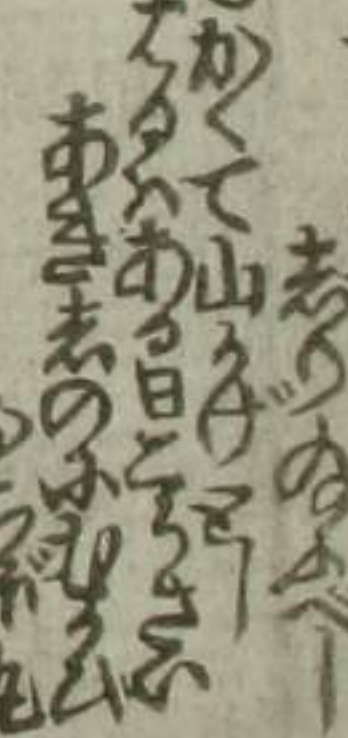
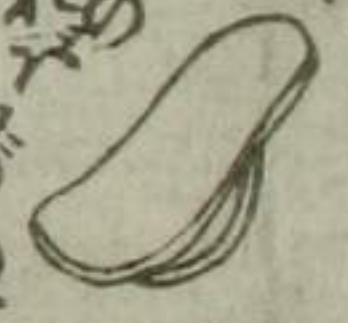


藤原

田舎の  
 小里  
 かくあつた世を  
 さぶらうかみよ  
 ちるもあはれ日  
 水あふく  
 かくあつた世を  
 かくあつた世を  
 かくあつた世を



ついでに  
 かくあつた世を  
 さぶらうかみよ  
 ちるもあはれ日  
 水あふく  
 かくあつた世を  
 かくあつた世を  
 かくあつた世を  
 かくあつた世を  
 かくあつた世を



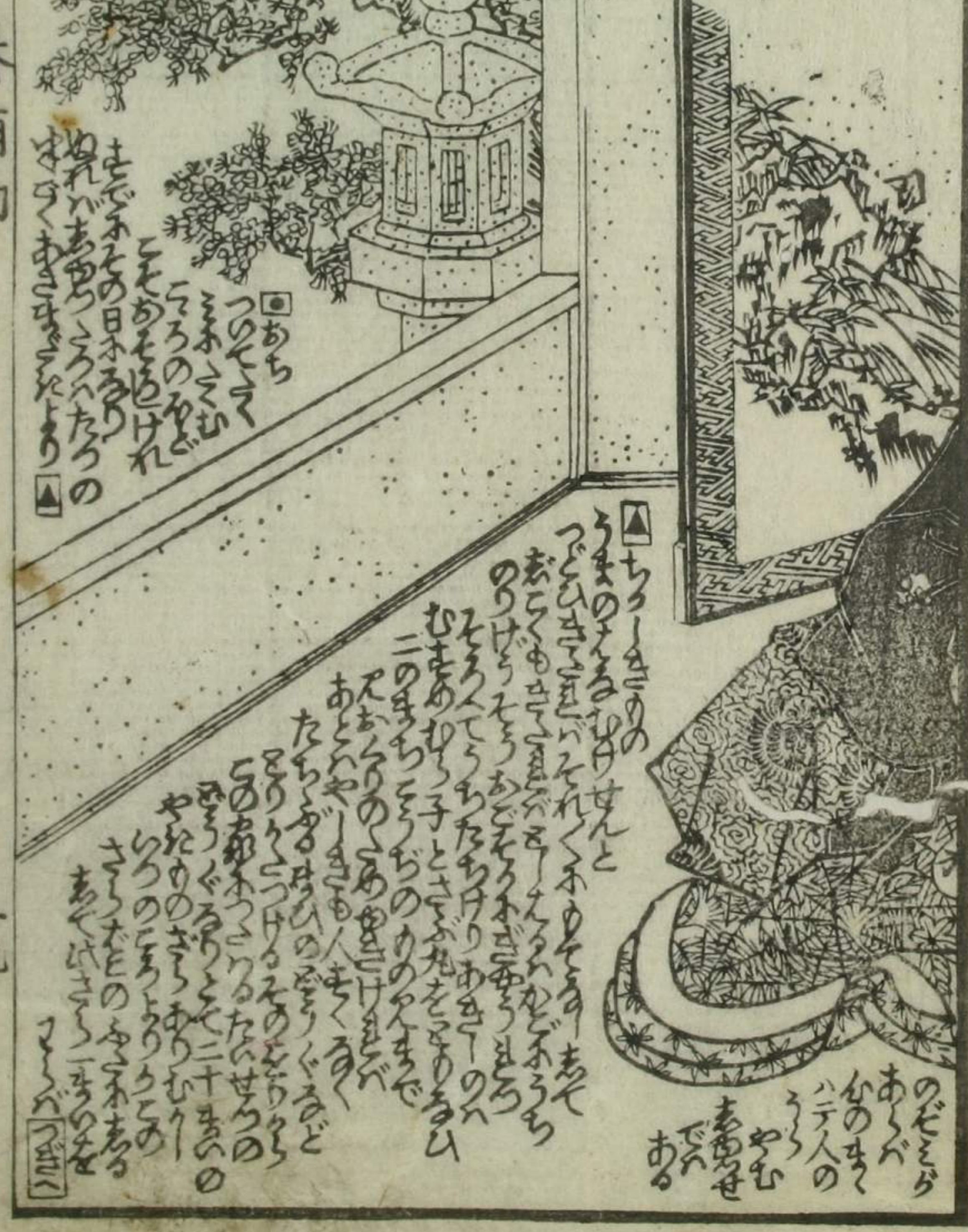
◎人

ついでにこの  
あつたれはまじり  
のりりりりりり  
去のりりりりり  
られりりりりり  
まのりりりりり  
ゆりりりりりり  
まのりりりりり  
うりりりりりり  
あつたれはまじり  
のりりりりりり  
去のりりりりり  
られりりりりり  
まのりりりりり  
ゆりりりりりり  
まのりりりりり  
うりりりりりり



あつたれはまじり  
のりりりりりり  
去のりりりりり  
られりりりりり  
まのりりりりり  
ゆりりりりりり  
まのりりりりり  
うりりりりりり

あつたれはまじり  
のりりりりりり  
去のりりりりり  
られりりりりり  
まのりりりりり  
ゆりりりりりり  
まのりりりりり  
うりりりりりり



あつたれはまじり  
のりりりりりり  
去のりりりりり  
られりりりりり  
まのりりりりり  
ゆりりりりりり  
まのりりりりり  
うりりりりりり





弘化四年丁未孟春新板目錄

遊仙香春雨草紙

初編 緑亭川柳作  
二編 一陽齋豊國画

新撰画本柳樽

三編 緑亭川柳撰  
一陽齋英泉画

列女百人一首

一冊 緑亭川柳輯  
一陽齋豊國画

新編柳樽

全冊 初編より二編と出来  
餘編迄刻

英雄百人一首

一冊 袋入 緑亭川柳輯  
五雲亭貞秀画

東都書肆

版元 馬喰町二丁目  
山口屋藤兵衛

豊國画

豊國画川柳作

つゞき みるんがまのあやう  
さらりとみれどもたどたどと  
うへあひさまふふちあひも  
ちのうのりろでうらうらふ  
ひさしくてはんさまいつ子を  
こむけはせしよやうらうを  
ゆふともかひそはさうらうを  
あてさるかひのうらうを  
ゆふともかひそはさうらうを  
あてさるかひのうらうを  
ゆふともかひそはさうらうを  
あてさるかひのうらうを  
ゆふともかひそはさうらうを  
あてさるかひのうらうを  
ゆふともかひそはさうらうを  
あてさるかひのうらうを



おちおち  
まよふかへ  
りりあへ  
るあふらさ  
あちあいの  
よきを  
あつと  
め

